

eトレ保護者会の具体例

1 eトレの基本コンセプトと目的を説明します

(1) 最初に「学力は演習量に比例する」ことを説明します

塾や学校の授業を聞いて分かったつもりでも、いざテストになると点が取れない。その原因は、理解したあとの演習（トレーニング）不足であることを説明しましょう。家庭では難しい演習の時間を塾で確保し、演習量を増やすことで学力を伸ばせることをアピールしましょう。

(2) 家庭学習の落とし穴について説明します

家庭学習の弱点として、第一に自分の部屋ではなかなか「集中できない」「続かない」という点。第二に教科書やノートを眺めて（あるいは写して）分かった気になっている、という点を強調します。また問題集をやる場合は、答えを写して分かった気になるという点を問題点として提起します。

(3) 教室で行うトレーニングのメリットについて説明します

家庭学習の弱点を補完するためのシステムとしてeトレ演習コースを始めることをアピールします。また教室でチューターがついて学習することの利点についても説明しましょう。

例) 家庭では続かないトレーニングも、トレーナーのいるスポーツジムなら継続できるものです。

例) 一人では続かない勉強も、友達と一緒になら継続できます。

(4) 個別に対応できることを説明します

eトレなら、生徒一人ひとりの目的や学力、理解度に応じて自動的に出力されたプリントで個々に勉強することで学力アップにつながることを説明しましょう。また生徒が学習するカリキュラムをあらかじめ決めておけるので、テスト対策や受験対策など、よりこまかな個別対応が可能であることもアピールポイントとして強調しましょう。

(5) eトレシステムについて具体的に説明します

- ①問題データベースは小1から高3まで揃っており、18万ページ分に相当する問題の中から即座にプリントアウトして学習することができます。予習・復習も自在に選択でき、テスト対策や入試対策問題も揃っています。
- ②ステップ・リトライ・チェック・チャレンジ問題と段階を踏むことで、無駄なく反復学習ができます。点数を入力したその場で自動的に合否判定がなされ、理解度に応じて学習を進められます。
- ③パソコン画面を見ながら学習するのではなく、生徒は問題用紙に自分で鉛筆を使って答えを書き込んで学習していきます。パソコンはあくまで個々に合った問題を出力する手伝いをするだけです。
- ④解説（ラーニング）があるので、基本内容をしっかり確認した上で、ドリル学習を進めていくことができます。また、プリントをとっておくことで、テスト前など重要事項の見直しができます。
- ⑤月間の学習記録表が印刷できるので、学習状況や理解度が確実に把握できます。弱点部分の発見も容易にできます。

2 eトレの実演をします

教室にeトレのパソコンとプリンターを用意して実際にプリント印刷したり、得点入力をして判定画面を見せたりします。学習記録表も印刷してみせて、きちんと保護者に報告することを伝えましょう。他の先生に生徒役として手伝ってもらって、模擬授業形式でeトレ学習の様子を見せることも効果的です。

3 体験会の様子を報告します

事前に実施したeトレ体験会の様子やアンケートの結果などを発表して、1時間の体験会でどの生徒もたくさんのプリントを解いた点を強調します。また、生徒たちが集中して積極的に勉強した点や、アンケートのコメントを引用して、生徒たちが楽しくeトレ学習をしたこともアピールします。

4 eトレコースの時間割と受講方法を説明します

eトレコースの時間割と受講方法を説明します。基本的な演習コースの他、定期テスト前の特別コースなどについても説明します。目安として1教科の学習に対しては、週1～2時限の受講を勧めましょう。

5 料金・申し込み方法を説明します

コースごとの料金や申し込み方法について説明します。その際、特に申し込み期限や人数に制限があることを強調して、早めに申し込むことを勧めましょう。

6 会場掲示、他

体験会の時の写真などを掲示しておく、保護者は興味を持って見ていきます。また、アンケートの実物を壁一面に貼り出すなどしても、会場の雰囲気盛り上げられるでしょう。